

PRESS RELEASE

2022年11月11日

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町二丁目1番地
会社名 そーせいグループ株式会社
(コード番号 4565 東証グロース)
代表者 代表執行役社長 CEO
クリストファー・カーギル
問い合わせ先 IR & コーポレートストラテジー部
西下進一朗
電話番号 03-5210-3290 (代表)

2022年12月期第3四半期(1月-9月) ビジネスハイライトおよび連結業績について

当社グループは本日、2022年12月期第3四半期(1月-9月)における事業の概況および連結業績を発表しましたので、お知らせします。2022年12月期第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)全文は[こちら](#)をご覧ください。

当社代表執行役社長 CEO であるクリストファー・カーギルは次のように述べています。「2022年第3四半期の当社グループは、今期これまでに実行した戦略およびビジネス上の取り組みを足掛かりに、大きな進展を遂げました。これらの取り組みにより、アジャイルかつ世界最先端の創薬とトランスレーショナル・メディシン機能の構築、複数プログラムを持つ臨床段階のバイオ医薬品企業への転換を加速しています。

当社グループのポジションは、これまでの提携先が有力パートナーであることや、これらの提携から生み出された候補品の進展によって、引き続き強化されています。さらに、有望な開発候補品を迅速に見出し、パイプラインに組み入れる能力を増強するため、革新的なバイオ医薬品企業との提携を続けています。

当社グループがこれまで築いてきた基盤や実行中の戦略は、患者さまにとって重要な新薬を複数創出し、株主の皆さまに価値を提供するものであると確信しています。」

2022年12月期第3四半期(1月-9月) ビジネスハイライト

- **アヴィ社との神経疾患における複数のターゲットを対象にした研究開発・製品化に関する新規提携** — 炎症性疾患および自己免疫疾患を標的とした既存の提携の範囲をさらに拡大する2つめの提携。当社グループは、新薬臨床試験開始申請(IND)までの研究開発活動を行い、研究開発資金を負担する。アヴィ社は、現段階で最大3つのプログラムについて独占的なライセンスオプションを有し、その後の臨床試験、申請・承認、商業化を担う。当社グループは、契約締

PRESS RELEASE

結時に 40 百万ドルを受領し、今後 3 年間で最大 40 百万ドルの初期開発マイルストーンを受領する権利を有しており、さらにオプション、開発・販売の達成に応じた、最大 12 億ドルのマイルストーンに加えて、グローバルでの販売高に応じた段階的ロイヤリティを受領する権利を有する。

- **ニューロクライン社とのムスカリン受容体作動薬に関する複数プログラムを対象とした提携で臨床開発におけるマイルストーンを達成** — 統合失調症を対象とした経口 M4 受容体作動薬 NBI-1117568（旧開発コード：HTL0016878）の第Ⅱ相臨床試験の新薬臨床試験開始申請（IND）が米国食品医薬品局（FDA）に受理され、ニューロクライン社が同試験を開始する意向を確認。このマイルストーンの達成により、当社グループはニューロクライン社から 30 百万米ドルを受領。2022 年 10 月 28 日、当社グループは、ニューロクライン社が第Ⅱ相臨床試験を開始したことを発表。
- **世界最大の民間がん研究基金である Cancer Research UK（英国王立がん研究基金）との免疫療法薬の臨床試験実施に関する契約** — Cancer Research UK が新規選択的 EP4 拮抗薬 HTL00397322 の第Ⅰ/Ⅱa 相臨床試験の資金拠出、試験デザインおよび実施を担う。他の免疫療法と併用することで様々ながんの効果を発揮する可能性。
- **日本で初めて開催されたインフォーマ・ファーマインテリジェンス・アワードで二冠を達成** — 当社は以下の賞を受賞：
 - **Licensing Deal of the Year**：2021 年 11 月にニューロクライン社と締結した新規ムスカリン受容体作動薬に関するライセンス契約に対するもの
 - **Executive of the Year**：当社代表執行役社長 CEO（当時 CFO）であるクリストファー・カーギルが、2021 年に称賛すべきリーダーシップを発揮したことに対するもの

2022 年 10 月 1 日以降のハイライト

- **2022 年 10 月、東京で R&D Day 開催** — クリストファー・カーギル（社長 CEO）、マット・バーンズ（英国研究開発ヘッド）、鈴木理愛（トランスレーショナル・バイオロジー部門 シニアディレクター）が、当社のビジョン、戦略、創業における革新的な研究開発とトランスレーショナル・メディスンに対するアプローチ、提携プログラムおよび自社プログラムからなる強力なパイプラインの動向を説明。当日の様子は[こちら](#)からご覧ください。

2022 年 12 月期第 3 四半期（1 月-9 月）の業績ハイライト

- 売上収益は、前年同四半期（2021 年 1 月-9 月）比 5,051 百万円増加し、8,641 百万円となった。これは主に、前年同四半期（2021 年 1 月-9 月）に 5 件のマイルストーンを達成した一方、当第 3 四半期連結累計期間にはアッヴィ社との新規提携契約締結による契約一時金および 3 件のマイルストーン（ニューロクライン社からの 30 百万米ドルのマイルストーンを含む）を達成したことによるもの。
- 研究開発費は、前年同四半期（2021 年 1 月-9 月）比 1,291 百万円増加し、5,623 百万円となった。これは主に、当社グループが独自で行う創薬および初期開発への投資の増加、および医薬品の開発を加速させるための構造改革費用によるもの。

PRESS RELEASE

- 一般管理費は、前年同四半期（2021年1月-9月）比282百万円増加し、3,170百万円となった。これは主に、医薬品の開発を加速させるための構造改革費用の増加、インフレに伴うコスト上昇と円安による影響によるもの。
- 営業損益は615百万円の損失（前年同四半期（2021年1月-9月）は4,225百万円の損失）となった。営業損失が減少した主な要因は、上述の売上収益の増加によるもの。
- 四半期損益は3,225百万円の損失（前年同四半期（2021年1月-9月）は1,825百万円の損失）となった。これは主に、持分法で会計処理されている投資の減損損失の計上、および法人所得税の増加によるもの。
- コア営業損益¹は1,300百万円の利益（前年同四半期（2021年1月-9月）は2,658百万円の損失）となった。コア営業損益が3,958百万円改善した主な要因は、売上収益の大幅な増加によるもの。
- 2022年9月30日における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,088百万円増加し、61,175百万円となった。

以上

Sosei Heptares について

当社グループは、Gタンパク質共役受容体（GPCR）をターゲットとした独自の StaR®技術ならびに構造ベース創薬（SBDD）技術から生み出される新薬候補物質の探索および初期開発にフォーカスした、国際的なバイオ医薬品企業グループです。当社グループは神経疾患、免疫疾患、消化器疾患、炎症性疾患など複数の疾患領域において、幅広いパイプラインの構築に取り組んでいます。

これまでアッヴィ社、アストラゼネカ社、バイオハイブン社、ジェネンテック社（ロシュ・グループ）、GSK社、Kallyope社、ニューロクライン社、ノバルティス社、ファイザー社、武田薬品工業株式会社、Verily社などの大手グローバル製薬企業および新興バイオ医薬品企業と提携しています。当社グループは、東京に本社を置き、英国のケンブリッジに研究開発施設を有しています。

「Sosei Heptares」は、東京証券取引所に上場しているそせいグループ株式会社（証券コード4565）のコーポレートブランドです。「そせい」、「Heptares」、当社グループのロゴおよび StaR®は、当社グループの商標または登録商標です。

詳しくは、ホームページ <https://soseiheptares.com/> をご覧ください。

LinkedIn: [@soseiheptaresco](https://www.linkedin.com/company/soseiheptaresco)

Twitter: [@soseiheptaresco](https://twitter.com/soseiheptaresco)

YouTube: [@soseiheptaresco](https://www.youtube.com/channel/UCsoseiheptaresco)

¹ コア営業損益は、中核事業の経常的なキャッシュ創出能力を示すために、重要な非現金支出費用や一時的な費用を調整した代替的な業績評価指標